

1 事業名

平成27年度教育事業 「体験活動支援セミナー」
 ～ドキドキ わくわく ボランティア 冬～

2 趣旨（事業の目的）

小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。

3 期日

平成28年1月16日（土）～17日（日）

4 参加者 24名

（高校生15名，大学生9名）

5 後援 岩手県教育委員会

6 連携・協力 盛岡大学

7 内容

（1）日程

日時	9:20 9:40 10:00		10:50		11:45 13:00		13:30 13:50		16:00 17:30 18:30		20:00 21:00 21:30		22:30			
16日（土）	受付	開会行事	講義 「事業運営及び活動支援についての心構え」	活動内容・プログラムについての説明	昼食	小学生受付	はじめの会	テンパーク プチリンピック！ ～雪上運動会～	ランタンづくり	夕食	スノーマジックファンタジー ～キャンプファイヤー～	入浴	就寝指導	ミーティング	就寝準備	就寝
日時	6:30	7:00	7:20	8:45	9:30	13:00		13:30	13:45	14:10	15:00		15:30			
17日（日）	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・休憩	退所点検	もちフェス！ ～もちつき大会～		アンケート記入	おわりの会	小学生解散	演習 「活動支援と児童理解」	閉会行事	解散	太枠で囲まれている部分は小学生への支援プログラムです。		

（2）指導者

国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	鎌田 信浩
	企画指導専門職	丹 康浩
	事業推進係	及川 未希生
	事業推進係	高橋 知也
	法人ボランティア	26名

（3）企画のポイント

参加者には、活動を支援する立場として、主体的に学校外における体験活動を行うための心構えや知識・技能を習得する講義・演習の時間を設定した。習得した知識・技能を生かす場として、実際に小学生を対象とした事業にグループリーダーとして主体的に関わらせ、小学生の野外活動の補助や安全管理などの経験が十分に得られるように企画した。

（4）広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県内の大学・短期大学，高等学校，報道機関に送付した。

(5) 運営のポイント

「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、法人ボランティアが本事業に向けた企画会議を行い、KJ法を用いて内容を絞り込み、活動内容の企画を担当した。企画ごとのワーキンググループに所属し、大学構内でのミーティングやLINEを活用した情報交換、Dropboxを利用したデータの共有等、様々な方法を使って企画内容を構成した。事前に実践してみる活動も行い、具体的な動きや必要な購入物品について検討することで、より本番をイメージした取組となった。また情報交換のツールとして活用したLINEやDropboxは、職員も確認できるよう、グループのメンバーに登録し、必要に応じてアドバイスをを行いながら、時間的な部分や企画内容について詰めていった。さらに事業運営がスムーズに行えるよう、職員が組織図を作成し、法人ボランティアとセミナー参加者、そして職員を含めた階層型組織を構築し、明確な役割分担のもと、事業に臨んだ。

組織的なキャンプ運営を心掛ける上で、事業のリスクマネジメントにも配慮した。具体的には、法人ボランティア4名が統括リーダーとなり、テンパークちゃれんじくらぶ参加児童の健康調査票をもとに児童の健康面や心理面、保護者からの心配事等を把握することで、支援セミナーの参加者と児童理解を深め、受け入れの準備を整えた。組織構築の中で、参加した子供が2日間、楽しく過ごせるように、支援セミナー参加者と参加児童との関わりに重点を置き、セミナー参加者を、2～3名ずつ小学生の班にグループリーダーとして配置し、統括リーダーがフォローできる体制を敷いた。運営スタッフとして参加している法人ボランティアは、企画を分担しながらも、分担の枠を超えて連携し合いながらスムーズな運営になるように心掛けた。活動中も子供との関わり方等について、法人ボランティアがセミナー参加者にアドバイスを行えるように配慮した。

活動の振り返りは、体験活動支援セミナーの参加者及び法人ボランティアは、それぞれ別時刻にスタッフミーティングを行い、子供の宿泊室から大人が離れることがないようにし安全面に配慮した。(資料を参照)

8 成果とその普及

本事業は、「テンパークちゃれんじくらぶ」に参加した子供たちが、体験をとおして満足感を得るとともに、体験活動支援セミナー参加者が、子供と接することをとおしてボランティア活動への指針となるべく、事業を展開している。さらに法人ボランティアの企画・運営能力の向上を狙う3つの軸で構成されている。それぞれの立場において、アンケートの結果も大変高い満足度を得ることができ、事業の目的どおりの成長が見られた2日間であった。体験活動支援セミナー参加者は、自分たちで工夫しながら、鬼ごっこやだるまさんが転んだなどをしながら、積極的に小学生との関わりをもち、意識の高さが伺えた。グループリーダーとして、子供たちと深く関わり、真剣に向き合う中で、子供たちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、多くのことを学ぶことができたと考える。

本事業は、本施設で提唱している「岩手山ボランティア育成ビジョン」が基盤となっている。ボランティア育成の積み重ねが、今回の事業の成果であるといえる。法人ボランティアの企画や活動が体験活動支援セミナー参加者に大きな影響を与え、次のステージの目標となれるよう、このボランティア育成の手法について広く県内外の施設に普及していきたい。

9 今後の課題

活動の支えとなるグループリーダーの働きが非常に重要な事業なので、事前の打合せや準備をしっかりと行い、参加した小学生に寄り添っていく姿勢を今後も大切にしていきたい。ボランティア育成において、ボランティアが活動に参加し満足感を得ることで、継続的に取り組む姿勢をもたせることができ、活動の魅力や価値を伝えることで、循環

的な人材育成を図ることができる。このことは、本施設で取り組んでいる「岩手山ボランティア育成ビジョン」をもととしたボランティア活動全体を充実させていくことが重要であり、今後も継続的にボランティア育成に取り組んでいくことが必要である。と考える。



班ごとの事前打ち合わせ



プチリンピック 雪だるまづくり



講義の様子

資料 テンパークちゃれんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

